

製品名: KMT1B ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab13084

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	46kDa

抗原情報

遺伝子名	SUV39H2
別名	SUV39H2; KMT1B; Histone-lysine N-methyltransferase SUV39H2; Histone H3-K9 methyltransferase 2; H3-K9-HMTase 2; Lysine N-methyltransferase 1B; Suppressor of variegation 3-9 homolog 2; Su(var)3-9 homolog 2
遺伝子 ID	79723.0
SwissProt ID	Q9H5I1
免疫原	抗血清はヒト SUV39H2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160

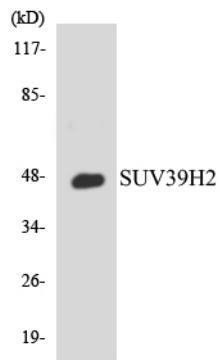
背景

触媒活性: S-アデノシル-L-メチオニン + ヒストン L-リジン = S-アデノシル-L-ホモシステイン + ヒストン N(6)-メチル-L-リジン。 ,ドメイン: SET ドメインは酵素活性の活性部位を含むが、メチル基転移酵素活性には pre-SET ドメインと post-SET ドメインの両方が必要である。 SET ドメインはヘテロクロマチンへの安定した結合にも関与する。 ,機能: モノメチル化された H3 'Lys-9'を基質として、ヒストン H3 の'Lys-9'を特異的にトリメチル化するヒストンメチル化酵素。 H3 'Lys-9'トリメチル化は、HP1 (CBX1、CBX3、および/または CBX5) タンパク質をメチル化ヒストンにリクルートすることにより、エピジェネティックな転写抑制の特異的なタグとなる。主にヘテロクロマチン領域で機能し、ペリセントリック領域およびテロメア領域における恒常的なヘテロクロマチンの確立に中心的な役割を果たします。 H3 の「Lys-9」トリメチル化は、ペリセントリック反復配列における DNA メチル化を誘導するためにも必要です。 SUV39H1 は、RB1 との相互作用を介してヒストン H3 を標的とし、細胞周期調節、転写抑制、テロメア長調節など、多くのプロセスに関与しています。精子形成における高次クロマチン組織化の調節に関与している可能性があります。 ,類似性: ヒストンリジンメチルトランスフェラーゼファミリーに属します。 Suvar3-9 サブファミリー。 ,類似性:1 つのクロモドメインを含む。 ,類似性:1 つの post-SET ドメインを含む。 ,類似性:1 つの pre-SET ドメインを含む。 ,類似性:1 つの SET ドメインを含む。 ,細胞内位置:セントロメア構成ヘテロクロマチンと関連。 ,サブユニット:SMAD5 と相互作用する。 ,触媒活性:S-アデノシル-L-メチオニン + ヒストン L-リジン = S-アデノシル-L-ホモシステイン + ヒストン N(6)-メチル-L-リジン。 ,ドメイン:SET ドメインには酵素活性の活性部位が含まれていますが、メチルトランスフェラーゼ活性には pre-SET ドメインと post-SET ドメインの両方が必要です。 SET ドメインはヘテロクロマチンへの安定した結合にも関与しています。 ,機能:モノメチル化された H3 'Lys-9' を基質として、ヒストン H3 の 'Lys-9' を特異的にトリメチル化するヒストンメチルトランスフェラーゼ。 H3 'Lys-9' トリメチル化は、HP1 (CBX1、CBX3、および/または CBX5) タンパク質をメチル化ヒストンにリクルートすることにより、エピジェネティックな転写抑制の特定のタグとなります。主にヘテロクロマチン領域で機能し、それによってペリセントリック領域およびテロメア領域での構成的ヘテロクロマチンの確立に中心的な役割を果たしています。 H3 'Lys-9' トリメチル化は、ペリセントリック反復配列での DNA メチル化を誘導するためにも必要です。 SUV39H1 は、RB1 との相互作用を介してヒストン H3 を標的とし、細胞周期の調節、転写抑制、テロメア長の調節など、多くのプロセスに関与しています。精子形成における高次クロマチン構成の制御に関与する可能性がある。 ,類似性: ヒストンリジンメチルトランスフェラーゼファミリーに属します。 Suvar3-9 サブファミリー。 ,類似性: 1 つのクロモドメインを含みます。 ,類似性: 1 つのポスト SET ドメインを含みます。 ,類似性: 1 つのプレ SET ドメインを含みます。 ,類似性: 1 つの SET ドメインを含みます。 ,細胞内局在: セントロメア構成ヘテロクロマチンと関連しています。 ,サブユニット: SMAD5 と相互作用します。 ,

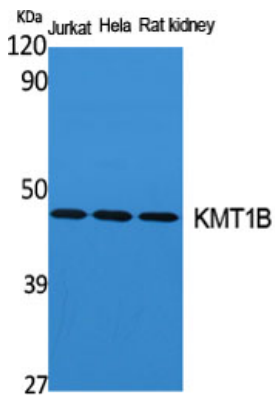
研究分野

リジンの分解;

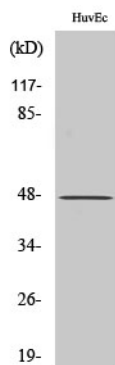
画像データ



SUV39H2 抗体を使用した 293 細胞からの溶解物のウエスタン ブロット分析。



KMT1B ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。



KMT1B ポリクローナル抗体を使用した COLO205 細胞のウエスタンブロット解析。